

1

都市計画マスタープラン策定の情報をホームページで！

平

成18年12月に策定した『田原市総合計画』の現に向け、その中の都市計画における総合的な指針として「都市計画マスタープラン」の策定を平成19・20年度の2か年で行います。

この計画は『田原市総合計画』などを踏まえて、都市の将来や土地利用の基本方針、都市施設、道路、公園、下水道などの配置方針を明らかにするものです。

策定にあたっては、総合計画策定時にさまざまな形で広く市民の皆さんから「意見・



アイデアをいただいています。それらを反映させた計画案は、策定委員会によって議論した後、パブリックコメントでの意見募集を考えています。

策定経過を公開

市では、市民の皆さんに都市計画への関心を持ってもらうため、「策定委員会」の会議録を中心に、計画の策定経過を市のホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

田原市ホームページ

<http://www.city.tahara.ch.jp>

「トップページ」

「田原市案内」

「各種計画」

街づくり推進課

☎ 23局 3523

「こんなにすごい!!」吉胡貝塚

田原ブランドの先駆け
貝のプレスレット

田原市の現在の産業と云えば「農業」、そして自動車の製造に代表される「工業」です。しかし、平安時代から鎌倉時代にかけては、渥美焼が全国ブランドでした。時代時代に日本を代表するブランドを提供してきた渥美半島。実は、その先駆けが縄文時代にあつたのです。

縄文時代、吉胡の人たちは、約5km離れた太平洋岸まで出向き、死んで打ちあがったベンケイガイ「サトウガイ」の貝殻を採取し、加工して交易品として流通させていたのです。これらの貝は大きく丈夫で、色・形が美しく、貝輪素材として最適です。また、拾うことのできる場所が全国的にも限られています。

貝の死後、海で採まれた貝殻は、破損しやすい個所が無くなり、丈夫な部分だけ残ります。傷がある

ものや弱いものは割れてしまうので、拾う段階ですでに、丈夫な貝輪素材として選別されているのです。実に合理的ですね。

これまで、貝輪素材を入手できる場所が近くにあり、縄文時代に貝輪が作られた遺跡は、千葉県銚子市余山貝塚と、秋田県能代市柏子所貝塚が有名でした。しかし、最近の発掘成果で、吉胡貝塚をはじめとした渥美半島は、千葉県、秋田県に並ぶ縄文時代終わりごろの、日本最大級の貝輪生産地域だったことが明らかになりました。



吉胡貝塚から見つかった貝の腕輪

文化財課 華山会館内

☎ 23局 3531